7月

↓アジュール舞子の草花・花木　7月

ヒペリカム・ヒドコート（大輪キンシバイ）

ツバキ目オトギリソウ科オトギリソウ属の耐寒性半落葉低木です。葉は、楕円形で緑色をしており、秋に紅葉します。枝に艶のある黄色い五弁の丸花を多数つけます。花は全開します。キンシバイ(金糸梅）の園芸品種です。

ハマボウ

アオイ科の落葉低木。花期は7-8月で、直径7cm程度の、中心が赤褐色の黄色い花を咲かせる。花の形態は同属のハイビスカス、ムクゲ、フヨウ等に似る。花は1日でしぼむが、大きな株は夏季に毎日次々と開花する

ヒペリカム・カリシナム

ビヨウヤナギやキンシバイの仲間ですが、草丈20～60cmの矮性種で、グランドカバーに適します。花は小さいが、株全面に咲く。日なたでもよく育つ。花期は長く、夏の高温時にもよく咲く。花色は黄。葉が黄金色の品種もあります。

ヘメロカリス

初夏から夏にかけて次々と花を咲かせる多年草。「デイリリー」の英名どおり、花は一日花ですが、1本の花茎にたくさんの花を咲かせ、何本も立ち上がるので、長期間花が楽しめます。園芸品種は2万以上あるといわれ、花色、花形、草姿などさまざまです。午前中の花が美しいです。

ビヨウヤナギ
美容柳

中国原産、オトギリソウ科の半落葉低木。花期は5-7月頃で直径5センチ程度の黄色の5枚の花弁のある花を咲かせる。キンシバイにも似ている。

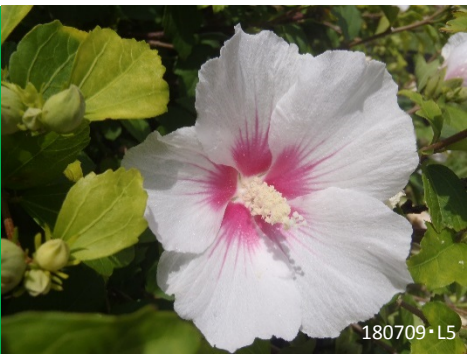
↓アジュール舞子の草花・花木　7月

ムクゲ　木槿

アオイ科フヨウ属の落葉樹。花は一重咲き、半八重咲き、八重咲きのものがあり花びらの形や枚数によってさらに細かく分類されます。色は白、濃紅、濃紫、青紫、ピンクなどがあります。花は短命で朝咲いたらその日の夕方にはしぼんでしまう一日花です。

キョウチクトウ夾竹桃

インド原産。葉は長楕円形で、両端がとがった形。やや薄くて固い。花は、およそ6月より残暑の頃である9月まで開花するピンク、黄色、白など多数の園芸品種があり、八重咲き種もある。



アベリア・ホープレイズ

アベリアの斑入り種で、黄色の外斑と長期間咲き続けるピンクの小花が美しい。

アベリア

低木で、春～秋のかなり長期に渡って、鐘形の小さい花を多数咲かせる。花の香りは非常に強い。日本列島の関東以西では真夏の酷暑の時期に花をつける在来植物が少ないため、この時期にはアベリアの花に多様なハチやチョウが吸蜜に集まる。

↓アジュール舞子の草花・花木　7月

シモツケ 下野

バラ科シモツケ属の落葉低木。地際からたくさんの枝を出して広がり、葉は長楕円形で長さ5cm～10cm、秋に紅葉します。主な開花期は晩春～初夏、淡い紅色の小さな花をたくさん咲かせます。

アメリカノウゼンカズラ

7～9月に咲くノウゼンカズラ科の花。花の 特徴は「枝先に円錐花序（枝分かれして全体が円錐状に見える）を出し、赤橙色ないし黄 橙色の筒状の花をつける。ノウゼンカズラよりも花径は小さく、筒は長い。

コバノランタナ

小葉のランタナ

コバノランタナは桃色や白色の花を咲かせる匍匐性の低木です。ランタナと同じ仲間で南アフリカ原産の植物で寒さにはあまり強くありませんが、暖地では庭植えで越冬させる事ができます。

ネムノキ　合歓の木

ネムノキは東北地方以南に生育する落葉の高木。梅雨の終わりから盛夏にかけて咲く花は繊細で美しい。長く伸びた糸状のものはおしべである。独特の花弁を持つマメの花とちがう印象があって、独立の科に分類する意見もある。

ランタナ

真ん丸に咲く花の色が少しずつ変化していくのが特徴。基本種は咲き始めがオレンジ色で徐々に黄色に変化していきます。その様子からシチヘンゲ（七変化）の別名がついています。

↓アジュール舞子の草花・花木　7月

マサキ

葉は楕円形で縁にゆるやかなぎざぎざが入り、革のような光沢があり厚めです。夏に緑がかった白色の小花を咲かせ、冬には赤い実を付けます。熟した実は3～4つに裂けて、中から赤黄色の種子が現れます。

クコ　枸杞

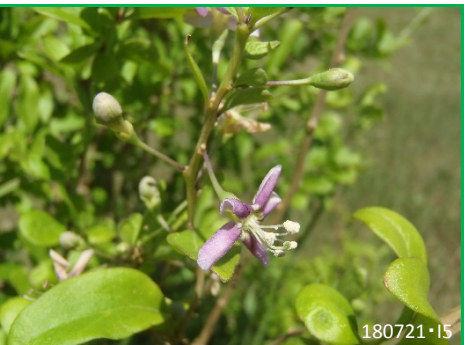
ナス科の落葉低木で、
食用や薬用に利用される。
開花期は夏から初秋で、
直径1cmほどの小さな薄紫色
の花が咲く。
果実は1cm～1.5cmほどの楕円形で、
赤く熟す。

モッコク　木斛

ツバキ科の常緑性広葉樹。
7月頃に淡いクリーム色の花をうつむきかげんに咲かせます。花後には球形の果実ができ、秋に赤く色付きます。モチノキ、モクセイとともに「三大庭木」にも数え上げられ、地味ですが風格があり、庭の主役として扱われてきました。

ハマゴウ

海岸に生育する常緑の低木。本州・四国・九州からアジア東南部から南大西洋、オーストラリアにも分布している。葉の裏面には灰白色の毛が密生しており、白い。夏に美しい唇形の花を咲かせる。花冠は長さ1～1.5cmで青紫色。



↓アジュール舞子の草花・花木　7月

ハマナス
浜梨　浜茄子

バラ科バラ属の落葉低木。
夏 に赤い花（まれに白花）を咲かせる。根は染料などに、花はお茶などに、果実は**ローズ ヒップ**として食用になる。

ヤブツバキ　藪椿

椿の仲間は200品種を越える園芸品種が作成されていて、日本に自生している野生種はこの**ヤブツバキ**と、その変種とされる**ユキツバキ**と**ヤクシマツバキ**の３種だけです。」「つばき」の語源は、厚葉木（あつばき）または艶葉木（つやばき）といわれている。

ガクアジサイ

花を一塊(ひとかたまり)と見ると、中心部にある紫色をした小さな珊瑚状のものが花(両性花)で、その周辺部にある小花のように見えるものは装飾花(萼片)です。この花の構造が、額縁のように見えるということで**額紫陽花**(ガクアジサイ)と呼ばれます。

ソシンロウバイ
素心蝋梅

葉の展開に先立って、花径2センチくらいの花をたくさんつける。ロウ細工みたいな花弁と嫌みのない芳香が特徴。蝋梅（ロウバイ）は内側の花被片が濃い紫色になるのだが、素心蝋梅（**ソシンロウバイ**）は花被片全体が黄色くなる。

アジサイ　紫陽花

アジサイの花は両性花と装飾花の2種で構成されています。両性花は生殖能力のあるいわば花の本体で、装飾花は大きな花びら(じつは萼)をもっていますが雄しべや雌しべが退化しており、実を結ぶことはありません。

ボケ　木瓜

日本、中国を原産とする
バラ科ボケ属の落葉低木。
枝にはとげがはえており、短い枝に花がびっしりとつきます。果実が瓜に似ており、木になる瓜で「木瓜（もけ）」と呼ばれるものが「ボケ」に転化したとも言われる。

↓アジュール舞子の草花・花木　7月

フェイジョア

南米を原産、冬も葉が落ちない常緑性の樹木で果実を食用とする果樹です。5月～6月に径4cmほどの花を咲かせます。花びらは外側が白で内側が暗紫色、真っ赤な糸を束ねたような多数の雄しべが花の中心から放射状に伸び、非常に目立ちます。果実は最初緑色で熟すと赤く色づいてきて、中秋～晩秋が食べ頃になります。

クロガネモチ　黒鉄黐

5月～6月にごく淡い紫色がかった小さな花を咲かせます。花自体は小さく目立ちませんが花後に1cm足らずの果実をたくさん付け、秋になると真っ赤に熟します。たくさんの真っ赤な実を付けた秋の姿は非常に美しく冬までその姿を楽しむことができます

オリーブ

オリーブは、モクセイ科の常緑高木。果実がオリーブ・オイルやピクルスを作るときに利用されている。
多くの品種では自家受粉できない。DNAが同一の花粉には反応せず実をつけないことが多い。このため、オリーブは2本以上隣接して植えた方がよいとされる。

ハナズオウ　花蘇芳

花の咲く時期は4月から5月、葉を出す前に葉の付け根に蝶型の花が数輪まとまって咲きます。花は赤紫色で、大きさは約2cmです。花茎が極端に短いので枝に直接くっついてるように見えます。満開時期は花が枝を覆います。花後にキヌサヤインゲンを短くしたような平たい豆鞘がたくさん垂れ下がり、熟すと褐色になります。

タラヨウ　多羅葉

モチノキ科モチノキ属の常緑高木。雌雄異株で、花期は4～5月頃、4mmほどの小さな淡黄緑色の花が群れて咲く。秋には8mmほどの小さな球形の赤い実がなる。葉の裏面を傷つけると字が書けることから「葉書」の語源ともいわれ、「郵便局の木」と定められ各地の郵便局に植栽されています。

ピラカンサ

ピラカンサはトキワサンザシ、タチバナモドキ、カザンデリマ等のバラ科トキワサンザシ属の総称。
常緑性の低木で、春に白い小花をさかせ、秋から冬にかけて赤や柿色の果実をたわわに実らせる。

トベラ　扉

4～5月になると枝先に芳香のある白い小さな花をたくさん咲かせて丸い果実ができます。
果実は10月頃に熟して3つに裂け、ねばねばとして糸を引いた赤いタネが中から出てきます。
雌雄異株で果実は雌株にできます。

アラカシ　粗樫

いわゆる「ドングリの木」の代表的な樹種であり、特に西日本に多く、関西地方ではごく一般的に庭木として使われる。枝の出方が荒いこと、幹に割れ目が多くて粗い感じがすること、材が堅いことなどから「粗い堅し」→「アラカシ」と呼ばれるようになった。

↓アジュール舞子の草花・花木　7月

ガザニア

主な開花期は初夏-秋で長く伸ばした花茎の先端に1輪の花をさかせます。色は黄色、ピンク、オレンジ、赤、白などがあり、蛇の目模様や2色咲き(バイカラー)、ストライプなど非常にカラフルです。。花は晴れた日中に開き、日の射さない曇りや雨、夜間は閉じます。

マツバギク　松葉菊（サボテンギク）

ハマミズナ科マツバギク属の多年草。葉は松葉のように棒状で、菊をイメージさせるような花を咲かせる。花はピンク、白、オレンジ、黄、紫、赤など多彩で、朝に花が開き夕方に花が閉じる。

ユズリハ　譲葉

葉は厚くて光沢があり色は濃い緑色で葉と枝をつなぐ軸（葉柄）の部分が赤味を帯びています。新旧の葉の世代交代がユズリハの場合「若葉が生えそろったら→古い歯が一斉に枯れ落ちる」というふうに短期間にはっきりしています。

ネズミモチ　鼠黐

葉は卵形で先端がとがってやや厚みがあり、表面に光沢があります。6月頃に先端が4つに裂けたラッパ状の小さな白花をまとめてたくさん咲かせます。果実はだ円形で秋に黒紫色に熟します。果実がネズミの糞に似ており、葉がモチノキに似ているのでこの名前があります。

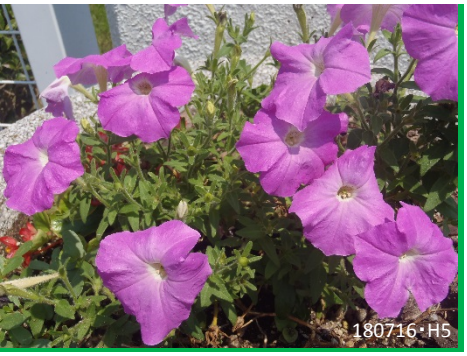
ゼラニウム

花は一重、八重などがあり、色は赤、紅、淡紅、ピンク、サーモンピンク、白などがあります。葉は丸っこく、馬のひづめ型の黒っぽい斑紋がつきます。茎は多肉質で太く、葉のつけ根から花茎を伸ばして先端に数十輪の花をボール状にまとめて咲かせます。

ペチュニア

初夏から秋にかけて咲く草花で、夏の花壇には欠かせない植物の一つです。品種改良も多く、500種以上の園芸品種があります。大輪、中輪、小輪種があり、八重咲き、一重咲きなどのバラエティーもあります。別名「ツクバネアサガオ」とも言います。

↓アジュール舞子の草花・花木　7月



オステオスペルマム

おもに南アフリカに分布する毎年花をさかせるキク科の草花。以前はディモルフォセカと混同されて売られていましたが、多年草で花茎に葉がつくなどの違いがあります。強い日差しを好み、乾燥に強いという性質は共通しています。花は日差しに反応して開き、日陰や雨の日は蕾のままになります

マーガレット

3-7月に花をつける。
白色の一重咲きが普通であるが、黄色やピンクのもの、八重咲き、丁字咲きのものもある。本来は宿根草であるが、日本では温暖地でないと越冬できない。

シロタエギク
白妙菊

寒さには強いが高温多湿にやや弱い常緑多年草で、草丈50～100cmくらいになり、茎の下部は木質化する。葉は長さ10cmくらいで羽状の切れ込みがあり、茎や葉は緑だが白い繊毛があり、6月か7月頃に黄色い花が開花する。

マリーゴールド

主に春にタネをまき、夏～秋に花を楽しみ、冬前には枯れる一年草です。花色は黄色、オレンジ、赤など暖色系が多いですが、珍しいものでは白やクリーム色の花も知られています。

アフリカハマユウ
（インドハマユウ）

一般的にはまだインドハマユウの名で流通していますが、正しくはアフリカハマユウであることが判明。南アフリカ原産の多年草で、茎の先にテッポウユリやタカサゴユリに似た白い花を多数つけます。

ヒメジョオン
姫女菀

キク科ムカシヨモギ属の一年草。背の高さが50-100cmにもなる。同族のハルジオンと共に道端でよく見かける雑草であり、環境省指定要注意外来生物。

↓アジュール舞子の草花・花木　7月

ヒナギキョウ
雛桔梗

キキョウ科ヒナギキョウ属の多年草。日当たりの良い原野に生育する。高さ20～40cmになり、7月から9月に小型ではあるが長い柄の先にキキョウにそっくりの花をつける。

ユウゲショウ
夕化粧

アカバナ科マツヨイグサ属の多年草。和名の由来は、午後遅くに開花してい艶っぽい花色を持つことからとされる。帰科植物として温暖な地域に広く分布。

カタバミ　片喰

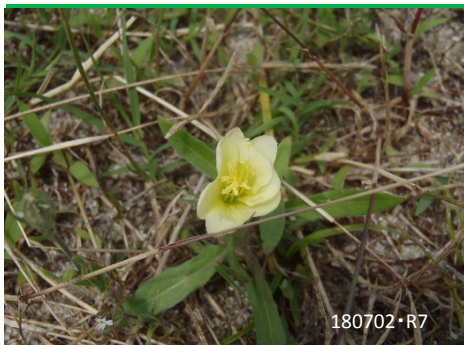
地下に球根を持ち、さらにその下に大根のような根を下ろす。匍匐茎をよく伸ばし、地表に広がる。このため、繁殖が早く、しかも根が深いので駆除に困る雑草である。

コマツヨイグサ
小待宵草

アカバナ科マツヨイグサ属の越年草または多年草。砂地などに生える
環境省指定要注意外来生物。

ブタナ　豚菜
（タンポポモドキ）

キク科エゾコウゾリナ属の多年草。ヨーロッパ原産で、日本では外来種（帰化植物）として各地に分布。
環境省指定要注意外来生物



↓アジュール舞子の草花・花木　7月

オオニワゼキショウ
大庭石菖

北アメリカ原産のアヤメ科ニワゼキショウ属の１年草または多年草。高さ20～30cmとニワゼキショウより大きくなるが、花は逆に小さく、さく果はやや大きい。花期は5～6月

セッカニワゼキショウ
雪花庭石菖

花径はニワゼキショウより小さくオオニワゼキショウと同じくらいの大きさです。草丈はニワゼキショウより少し低め。花弁は白色でニワゼキショウより細く中心部は黄色一色です。白色のニワゼキショウですね、別名小庭石菖とも呼ばれています。

ヘラオオバコ
篦大葉子

オオバコ科オオバコ属の多年草。ヨーロッパ原産の帰化植物でヨーロッパではハーブとして食用や薬用に利用。
環境省指定要注意外来生物

ハナハマセンブリ
花浜千振

地中海沿岸の原産で北アメリカなどに帰化している。根生葉はロゼットを形成しない。よく似た**ベニバナセンブリ**は花の直径が11～13mmと大きく、普通、花期にも根生葉がロゼット状に残る。

ツユクサ　露草

二つ折れになった苞の間から青色の花が次々と咲く。花は一日花である。早朝に咲き出して、午後にはしぼんでしまう。
朝咲いた花が昼しぼむことが朝露を連想させることから「露草」と名付けられたという説 がある。

メリケンムグラ

北アメリカ原産の1年草。1969年に岡山県で見いだされ、東海・近畿以西に分布し、やや湿った場所に生じ、茎は基部で四方に分岐して横に広がり、マット状を呈する。葉は広線形で対生し、表面は濃い緑色でやや革質、ほぼ無毛。花は白色の筒形で先端4裂する。

シロツメクサ 白詰草
（クローバー）

マメ科シャジクソウ属の多年草。別名、クローバー。原産地はヨーロッパ。花期は春から秋。詰め草の名称は江戸時代にオランダから献上されたガラス製品の包装に緩衝材として詰められていたことに由来する。

↓アジュール舞子の草花・花木　7月

エノコログサ　狗尾草

1年生草本である。ブラシのように長い穂の形が独特な雑草である。夏から秋にかけてつける花穂が、犬の尾に似ていることから、犬っころ草（いぬっころくさ）が転じてエノコログサという呼称になったとされる。 俗称　猫じゃらし。

ヒメクグ　姫莎草

カヤツリグサ科の多年生雑草で北海道～九州北部に分布します。湿った場所に発生しやすく、高さ10-30cmの群落を形成します。花茎の先端に、丸っこいくす玉のような穂を、1個だけつけるのが特徴である。

オーニガラム・コーラツム　子持ち蘭

玉ねぎのような鱗茎から長い花茎をのばして、花が咲きます。
「子持ち蘭」の名の通り、子の鱗茎がたくさんつき、子供からも新芽が出て、何かの刺激を受けると、ポロリと地面に落下し、根が伸び独立して成長を始めます。

イヌクグ　犬莎草

カヤツリ科の多年草。草丈30㌢～60㌢になり、根元より三稜形の長い茎を伸ばし、茎の先に葉と同形の包葉を3個～5個出す。小穂はブラシ状に開出してつけ、小穂の長さ4㍉～5㍉の円柱形で先端に小花をつける。

チチコグサ　父子草

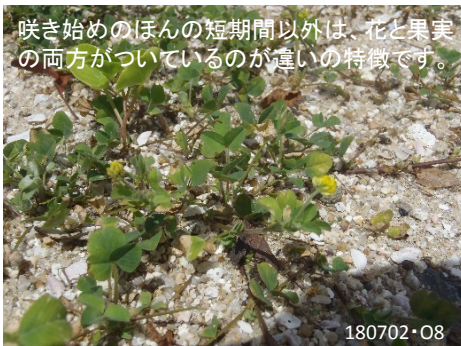
キク科ハハコグサ科の植物。母子草は春の七草のオギョウの別称で親しまれ野の花として風情があるが、父子草は形は面白いが地味な植物。母子草が白い毛に包まれた柔らかな姿に黄色い花が映えるのに対して、父子草には全体に色気が少ない。そこが父子草たるゆえんかも知れない。

コメツブウマゴヤシ
米粒馬肥

黄色の小さな花を咲かせるマメ科の植物にコメツブツメクサがあります。それによく似たコメツブウマゴヤシあり、コメツブツメクサより背が高く、葉には裏表に白い毛が生えています。花が終わると花殻は残らず、丸まった果実を付けます。

ヘクソカズラ　屁糞葛

蔓性多年草で、至る所に多い雑草。葉や茎に悪臭があることから漢字で書くと屁糞葛の名がある。
古名はクソカズラ。
別名はヤイトバナ、サオトメバナ。



↓アジュール舞子の草花・花木　7月

ハマボウフウ
浜防風

被子植物のセリ科ハマボウフウ属の一種。海岸の砂地に自生する多年草。近年自生地が著しく減少している。山菜として食用にするほか、漢方薬・民間療法薬として利用される。

ハマヒルガオ
浜昼顔

ヒルガオ科ヒルガオ属の多年草。
典型的な海浜植物である。
要注意外来生物のコマツヨイグサの増加により本種は著しく減少している。

コウボウムギ　弘法麦

海浜に生育する多年生の草本。
東アジアの海岸に広く分布し、
砂丘上にやや疎な群生を作る。
古い葉鞘の繊維が地下に残り筆のような形になり、実際に筆として使われたこともあると言われ、
別名のフデクサ（筆草）はこれにちなんでいる。